浜田市議会議長　原田義則様

議員名　　道　下　　文　男　㊞

調　査　研　究　活　動　報　告　書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1．期　　間　　平成２７年5月１１日（月）～5月１２日(火)

2．視察先と内容

① 安芸高田市　　川根振興協議会の取組みについて
「行政に頼らないコミュニティづくり」
講師　　辻駒健二会長

② 門前湯治村　　神楽ドーム視察
(安芸高田市)　　説明　　山根孝浩安芸高田市政策企画課まちづくり支援係長

③ 邑南町　　誰もが幸せになれるまちー攻めと守りの定住プロジェクト
「Ａ級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」
講師　　石橋良治邑南町長
田村哲邑南町定住促進課課長補佐
口羽正彦商工観光課課長補佐

3．参加者　　原田義則　牛尾博美　西田清久　道下文男　飛野弘二
上野茂　　野藤薫　　串崎利行　渋谷幹雄

4．調査経費　　１　２　，　７　５　３　円

5．調査研究活動の概要　　別紙

浜田市議会
受付
27.6.-1

安芸高田市

市の概要　安芸高田市は、広島県の中北部に位置しており、平成１６年に吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町が合併して誕生した。戦国武将毛利元就の本拠地として知られ、その居城郡山城に代表される古い歴史文化と、神楽などの伝統芸能や豊な自然に恵まれた市である。中国縦貫自動車道が市内を横断し、一般国道５４号・４３３号、主要地方道「広島三次線」「吉田邑南線」が走っている。鉄道は、広島市と岡山県新見市を結ぶＪＲ芸備線、三次市と島根県江津市を結ぶＪＲ三江線が市内を通り、芸備線には３駅、三江線には４駅が設置されている。

・面　積：537.75K㎡
・人　口：30,461 人（H27.4.1 現在で外国人も含む）
・市　長：浜田一義　71 歳（旧吉田町長）２期７年
・議員定数：18 人
・平成 27 年度一般会計予算：199 億 5,000 万円（自主財源：23%）

1、川根振興協議会の取組みについて

● 昭和４７年・・・地元の有志が、自分たちの手で地域を守るために結集した
　・７月の大水害で、地域の家屋１/３以上が流出し、行政に任せず自分たちの手で復旧作業に立ち向かった　・・・・ "川根振興協議会" を設立

～　都会の物質的な豊かさを求め、核家族化の進行で地域が住みにくくなった　～

● 辻駒会長の自宅近くで高齢者の自死が発生

☆　「不便な地域　➡　便利な地域」へ地域に誇りを持って取組もう！！

↓

行政へ、「要求型」から「提案型」へ！！

● 平成元年・・・ "川根地区総合開発構想" 策定
● 平成３年・・・川根将来構想津図 "川根夢ろまん宣言" 作成

⇩

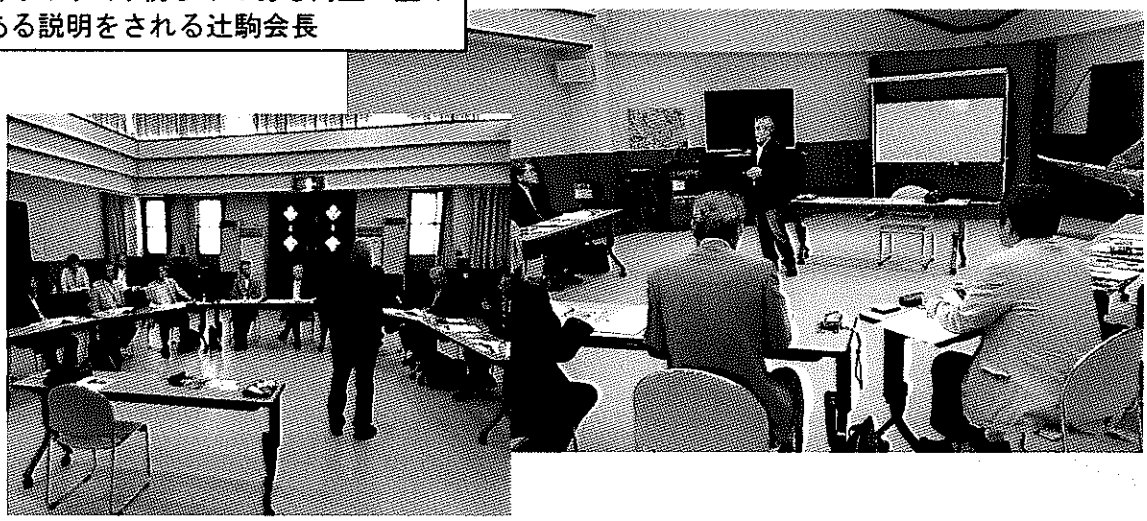
● 平成４年・・・**交流拠点施設** "エコミュージアム川根" 完成
　廃校となった旧川根中学校を全面改修し、「宿泊研修施設」と「食堂」を併設し、ホタル観賞や川遊びなどの自然体験もできる
　・地元住民から７４０万円の募金を集め、総費用４億円で整備
　・現在は、市から８７０万円/年の委託料で指定管理し、約８千人の利用者がある

～　８０代の一人暮らしの女性が孤独死　～

● 平成５年・・・地域福祉活動 "一人一日一円募金" 開始
　・高齢者への配食サービスへの原資（地域の安心・安全）
　　・・・ "ほたるまつりｉｎ川根" 開始（自然環境保護・地域活性化）
● 平成６年・・・ "せいりゅうまつり" 開始（文化伝承・異世代交流）
● 平成１０年・・・ "川根農地を守る会" 設置
　・１９集落の農地を一括管理
　・農業が基幹産業　⇒　農地を守る
● 平成１１年・・・地域提案による "おこのみ住宅" 入居開始
　・ＵＩターン受入へ
● 平成１２年・・・農協撤退後を受け、 "あぶらや" 、 "よろずや" 運営開始
● 平成１５年・・・ "サテライト・デイサービス" 開始
　　・・・ "川根土地改良区" 設立し、基盤整備着工
● 平成１６年・・・支え合う地域福祉活動 "おたがいさまネットワーク" 設立
● 平成１７年・・・小学生と一人暮らしの高齢者の交流 "まごころメール" 開始

- 平成１８年・・・「放課後児童教室」開始
- 平成１９年・・・「高齢者ふれあいサロン」開始
- 平成２０年・・・〝農事組合法人かわね〟設立
- 平成２１年・・・市町村運営有償運送事業〝かわねもやい便〟運行開始

解りやすく、親しみのある尚且つ重みのある説明をされる辻駒会長



2、合併を機に安芸高田市が取組んだもの

- 旧町村単位で、地域振興組織の６連合組織を設置
- 各地域振興組織の財源
  - ・住民負担の年会費　（200～3,000 円）
  - ・市からの助成金　（活動支援金：2,400 万円、活動補助金：1,800 万円）
    ※ 連合組織で話し合いを行い、配分額を決定
  - ・企業よりの寄附金
- 住民と行政の対話の場
  - ①自治懇談会・・・　各地域振興組織の主催
  - ②支所別懇談会・・　市の主催で（旧町単位）
  - ③団体懇談会・・・　女性会や老人会等の主催で
- 平成 17 年に、６つの連合組織から５名ずつを選出し、住民 30 名で進める市民主導の「まちづくり委員会」を設置

  目的・・・・地域振興組織の活動の継続と充実を図る
  - ①相互連携
  - ②情報交換
  - ③各種まちづくり計画の策定への参画
  - ④調査研究
  - ⑤市の施策・事業への提言

  【例】
  - ①市民活動保険を防災活動について
  - ②防災活動について
  - ③子育て環境、子育て支援について
- 職員が〝自主的に〟、住民として地域に関わる

≪所感≫

辻駒健二振興会会長は、ジーパン姿のラフなスタイルで私たちを迎えていただき、非常に分かりやすい、また親しみのある口調で住民自治の取組みについて説明をされた。その中で特に感銘したのは、「地域を、どうにかして絶対に守るんだ」という並々ならぬ強い信念がハードロックのベースの音のようにズシリズシリと伝わってきたことである。４０数年にも及ぶ実体験を通しての説明であり、〝川根振興協議会　辻駒ワールド〟に聞き入ったしだいである。また、エコミュージアム川根の食堂での昼食、「ご飯・野菜の天ぷら・盛りそば」の美味しさは絶品であった。

門前湯治村について

- 平成１０年整備
- 門前湯治村総事業費４０億円
- 神楽ドーム建設費８億円
  委託費：年間４０００万円
  金土日に年間１５０日神楽上演
  チケット収入→社中と管理会社とで折半
  入場者一日平均５００人

門前湯治村の敷地内で、説明を聞く

「テント張りの神楽ドーム」
前側畳敷きで２畳の桟敷席に変化、後列は椅子席

≪所感≫

安芸高田市の神楽は、江戸期に出雲流神楽が石見神楽を経てこの地域に伝えられ、今では市内 22 神楽団が神楽を舞い、舞人たちは懸命にその技を磨いているとのことであり、浜田市にもいえることであるが、人々の神社・神に対する信仰心を繋ぎとめ、自然や神への畏敬・恩恵に対する先人の心を今に留める大きな役割をはしていることは、揺るぎのない事実であり、舞人や関係者の皆さんに改めて敬意を表するものである。そういう中で、浜田市も常設神楽舘の構想があり、ここ門前湯治村「神楽ドーム」を研修し、建設費用もさることながら、委託費も多額の経費を要しており、浜田市での取組もより詳細な調査研究が必要であると感じた。

邑南町

市の概要　邑南町は、平成16年10月に羽須美村、瑞穂町、石見町の合併により誕生。厳しい財政直面に直面しながらも「和」のまちづくりを理念に、新しいまちの基盤づくりを進めた。

①邑南町健康センター「元気館」、羽須美支所、瑞穂支所の建設
②公共施設の耐震化、防災行政無線の整備
③道路網整備、公共交通体系の見直し
④上下水道事業の推進
⑤ケーブルテレビの開局

を進めた。そして合併5周年後、

①子育て世代に優しい住みやすいまちづくりを目指す「日本一の子育て村構想」
②邑南町の生産者が育てた食材を使っての〝ここでしか味わえない食や体験〟A級グルメと定義した「A級グルメ立町」

を2本柱に掲げ、定住促進に取り組んだ。

・面　積：419.29K㎡
・人　口：11,093人（H27.5.1現在）
・市　長：石橋良治　65歳（元島根県議、元石見町議）3期10年
・議員定数：15人
・平成27年度一般会計予算：158億8,000万円（自主財源：14%）

誰もが幸せになれるまち－攻めと守りの定住プロジェクト
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」

・平成16年　邑南町が誕生
・平成17年　健康センター「元気館」竣工
・平成18年　防災行政無線整備完了
　　羽須美支所新庁舎が開庁
・平成19年　**「まちづくり基本条例」**制定

◎まちづくりの**基本原則**

①町民と町は、互いの役割と責任のもと、協働でまちづくりを進めていきます
②まちづくりは、町民と町が必要な情報を共有しながら進めていきます
③町民と町は、コミュニティがまちづくりにおいて重要な役割を果たすことを認識し、これの育成、発展に努めます
④町民と町は、培われてきた自然・伝統・文化・暮らしを大切にし、邑南町の特性を生かしたまちづくりを進めていきます

○町民、役場、議会、町長それぞれの責務

・**役場**　①町の実施する主要な事業について、町民の意思が反映されるよう、計画・実施・評価のそれぞれの過程において町民の参加を保障し、その機会の確保に努めます
②審議会、委員会などには公募委員を加えます
③町民からの意見、要望、苦情などには責任をもって応答します
④能率的、効果的なまちの施策、事業のため行政評価に取組みます
⑤町職員は、自ら積極的にまちづくりに取組みます
⑥町職員は、能力開発と自己啓発に取組みます

・**議会**　①町民の意思が調整の運営に適切に反映されるよう活動します
②町政が町民の意見を反映し、適切に運営されているかどうか調査・監視するとともに、その結果を町民にわかりやすく明らかにします

・**町長**　①この条例の理念に基づき、公正かつ誠実に町政を執行します

・平成20年　「議会基本条例」制定
・平成21年　防災レリポート竣工
・平成22年　「おおなんケーブルテレビ」開局
・平成23年　◇瑞穂支所新庁舎が開庁
　　◇日和小学校を矢上小学校へ統合
　　◇「A級グルメ立町」「日本一の子育て村」事業を開始
　　（第2子以降の保育料、中学校卒までの医療費を無料化）
　　◇一般社団法人「邑南町観光協会」を設立
・平成24年　「A級グルメ立町　日本一の子育て村構想」が総務大臣賞を受賞
・平成26年　「食の学校」開校

内容

1、和のまちづくり

- まちづくりの基本理念
  ・住民が主役----まちづくり基本条例の制定
  ≪周辺を大切に---- 216集落、39自治会、自治会担当職員配置≫
- 自立を促す → 公民館設置・職員3人体制（正規職員1名）---- 地域に出かけて行く
- 合併後の一体感 → ケーブルテレビの活用 ----加入率96%
- 若手職員による地域のカルテづくり ---- 地域の課題と人口分析
- 出羽地域の取組み ----「出羽夢づくりプラン」策定
  ・「日々の生活は足りているが、足りないのは希望」との声を受ける
  ↓
  ・課題の解決と夢の実現に向けて ----「LLC出羽」法人設立
  ↓
  ・地域通貨と人材バンク ---- 農地保全・除雪作業・空き家対策へ
- 町民の生活満足度調査 ---- 84%が満足（全国平均64%）
  ・理由　①子育て支援・学校教育・高齢者障害者福祉の充実
  ②下水道普及率91%
  ③食べ物おいしい85%
- 人口減少の右肩下がりを緩やかにする ← 900自治体2045年には消える
  ・2015年の推計値11，031人 ⇔ 現実は、11，487人
- 邑南町の人口動態
  ・社会動態H25年＋20人、H26年＋13人　（浜田マイナス326人）
- 町民に誇りを持ってもらうことが大事
- 今いる人も大切に「誰もが主役」---- 日本一の子育て村構想へ
  ・0～18歳人口の増加と定住 → H33年の目標1800人（100人増）
  ☆邑南町は、過疎債をソフト事業に充当できるように陳情
  ↓
  ・特別枠分1億8千2百万円全額消化する必要がある
  ↓
  ・過疎ソフトで思い切った戦略を ---- 関係課召集

2、守りの「日本一の子育て村」構想

- 身近で安心な医療体制の構築→公立邑智病院
  ①医師10人体制、専門医の常勤、24時間緊急受付
  ②産婦人科、小児科機能の充実、

③ドクターヘリを整備

- 保育料の無料化と「日本一の母子保健事業」---- 中学生までの医療費無料
- 待機児童ゼロ、９ヶ所の保育所は統合しない
  - ・園児４人でも、園長、保育士、調理師の体制維持
- 過疎債を使って、一般財源の支出を振替え
  - ・日本一子育て村基金→１０年後にツケをまわさないために積み立てを行う
- 日本一の子育て村へ
  - ・町民が一丸となって子育てに対する取組みを進めて行くことが大事
  - ↓
  - ・地域で子育てし、未来を創る
  - ↓
  - ・みんなが笑顔で暮らせるまちへ
  - ☆行政無線で赤ちゃんの誕生をみんなに知らせる
- 保育料２子目から無料、保育所完全給食、病児保育・延長保育の拡充
- 公民館の充実・地域学校・奨学金制度・笑顔キラキラ事業
- 定住支援コーディネーターを配置（職員男女２名）→ ＵＩターン者の完全ケア

３、攻めの「Ａ級グルメ」構想

- 地域おこし協力隊３１人（耕すシェフ、アグリ女子隊、地域クリエーター、アクサポ隊）
- 数値目標設置
  - ①定住人口２００人確保 → ２１３人
  - ②観光入込客数１００万人 → ９２万人
  - ③食と農の５名の起業家 → ２７人に
- 食の学校 ---- 調理学校との連携
- 「都市から地方へ」を継続・強化する ---- 農林業の活性化が重要
- Ａ級の町をめざして → 新たな就業スタイルの創造

４、今後の課題

- 町内に食と農を中心とした起業支援センターを設立
- 民間企業との協働によるさらなる邑南町のブランドカアップ
- 一流の人材の育成 → 世のため、人のために役立つ人材の育成
- 新たな就業スタイルの創造
- １００年先でも持続可能な町へ → 理想郷に向けて
- 町全体が一つの家族としてサポート

邑南町石橋良治町長

石橋町長から説明を受ける

≪所感≫

「誰もが幸せになる町」を目指して合併から10年、着々と邑南町のまちづくりに取組んでこられたとことを感じた。町議6年、県議8年、町長11年あしかけ25年の政治活動を邁進されている石橋良治町長は、正真正銘の政治家であるとも思った。川根振興協議会長の辻駒さん、あるいは民宿のおかみさんが足を向けられないと言われたことが未だに脳裏に焼き付いている。何より姿勢が良い。誰に対しても腰が低く、しかしながら筋金の通った政治のビジョンを持っていらっしゃる。そのことが言葉の端々、あるいは行動の端々に随所に見受けられた。

特に印象残った言葉を記してみた。

☆ 仕事をしない古い職員はほおっておき、若い職員を現場主義にて徹底的に鍛える

☆ 一流の講師から一流の講義を受ける

☆ 学校、保育所、公民館はつぶさない。10年は出来うる限りのことをして支える。その後考える

☆ ケーブルテレビで、本当の情報を町民へ発信する